ボーリング柱状図

調　査　名　国道182号　道路災害防除事業（法面対策）に伴う業務委託

事業・工事名

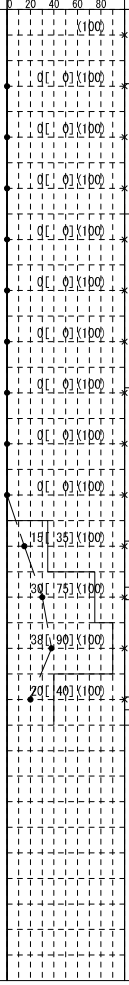
ボーリングNo.	5	2	3	3	0	1	0	1	0	1	0

シートNo.　10

ボーリング名	No.J-1	調査位置	府中市上下町			北緯	34° 40′ 28.9030″
発注機関	広島県東部建設事務所	調査期間	平成29年 9月29日～平成29年10月 5日			東経	133° 08′ 58.9060″
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	TP 387.89m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	36° 水平 0° 鉛直 90°
総掘進長	14.00m	使用機種	試錐機	東邦D-0	ハンマー落下用具	半自動型
			エンジン	ヤンマーNFD80型	ポンプ	東邦BG3C型

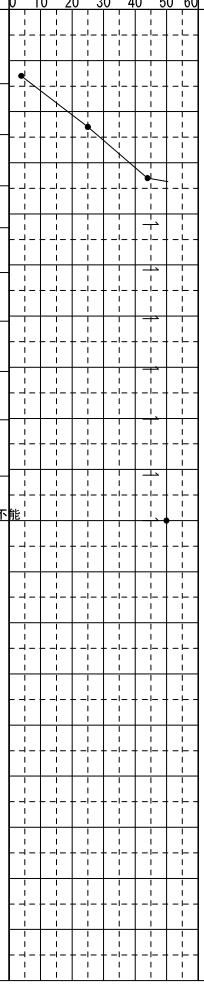
標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位／測定月日
1	386.89	1.00		粘土質砂	暗褐～褐						表土、細砂主体 上部0.15m腐植物混入		
	386.44	1.45		粘土混じり砂	黄灰						流れまさ土		
2 3 4	383.89	4.00		風化花崗岩	黄灰～褐	E	VI		ε	4	岩組織は認められるが、全体に著しく風化・軟質化している 指圧により、砂～砂質土状に砕ける 長石類は軟質化し、一部は粘土化している	DL	
5 6 7	380.49	7.40		風化花崗岩	淡褐灰	D	VI	d	δ	3	全体に風化・軟質化している 岩片は軟質で、指圧により、砂～小礫状に砕ける 斜長石類は白濁化し軟質である。 深度増に伴い硬度を増す	DH	
8 9 10	377.49	10.40		風化花崗岩			V		γ	2	全体に風化軟質化している 指圧により辛うじて、礫～小礫状（オニマサ状）に砕ける 斜長石類はは白濁化しているが、比較的硬い（軟質化していない） 深度増に伴い硬度を増す	CL	10/10 10.00
11 12 13 14	373.89	14.00		花崗岩	灰	B C B	III IV II III IV III	b	β	1	概ね新鮮な花崗岩で、岩片は中硬質～硬質 硬質な柱状コアを主体とする 割れ目は褐色に変色し、一部で薄い砂質土を挟む 11.3～11.55m、13.45～13.70m割れ目が集中し、岩片状コアとなる	CH CM CH CM CH	

コア採取率 ―×― (%)　最大コア長 ―●― cm　RQD ―― [%]



標準貫入試験

深度 m	打撃回数／貫入量 回/cm	N値
1.15	4/30	
1.45		
2.15	25/30	
2.45		
3.15	44/30	
3.45		
4.15	50/12	
4.27		
5.05	50/10	
5.15		
6.00	50/10	
6.10		
7.00	50/8	
7.08		
8.00	50/3	
8.03		
9.10	50/3	
9.13		
10.00	貫入不能	



原位置試験　室内試験

掘進状況

掘進月日	掘進速度 cm／時	孔径／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧 MPa	回転数 rpm	送水圧 MPa	送水量 l／分	排水量 l／分
	150	86／ケーシング	打込み／メタル	0	0	0	無水／0	0
	150		ダブル／メタル	5	100	0	清水／10	10
9/29	100			10	150			
	90		ダブル／メタル	20	100	0	泥水／11	11
10/2	80	66	ダブル／メタル	20	100	0	泥水／11	11
10/3								
10/4	60		ダブル／ダイヤ	25	100	0	清水／11	11
10/5								